

# 新山協ニュース

会 長 藤井 信  
 新潟県山岳協会  
 長岡市学校町3-11-7  
 TEL 0258-32-4835

事務局 土田幸雄  
 長岡市中沢4-426-4  
 TEL 0258-39-2700

編集者 遠藤家之進正和  
 上越市本城5-4-102  
 TEL 0255-26-9986

## 中高年登山者の現状

(旭岳からトムラウシ縦走より)

むささび会

加藤 記代子

### 継続は力なり

6年前トムラウシを目前にして、風雨のため敗退をした苦い思いがある。機会を待っているうちに歳月は走り去り、体力との戦いがやって来た。3泊4日の予定で夫と二人である。どのように対応して挑むかが課題である。食料はコンパクトで軽い物を選び、装備は最小限にした。軽く計算をしたはずの荷は18.5kgになった。よせば好いのに健康を取り戻した私は、夫への愛情が出発直前になって気が緩み、ビール4本2kgを担いだ。結果はこれも苦勞の一因になったが、途中で放棄する訳にはいかない。旭岳の2時間の登りは悪戦苦闘する。理由をこじつけて休む始末である。中高年がまばらであるが目止まる。追い越したり追い越されたりである。重装備の40代らしい夫婦もその一組である。奥様は経験が乏しいらしいが、若さで意気込んでいる。あの

歩き方では長丁場はもたない  
 と見ていると、金庫岩に到着  
 しないうちに会うことはなかつ  
 た。50歳過ぎの男性2人ずれ  
 は、日帰り装備にもかかわらず  
 ず一歩歩いて二歩休む状態であ  
 る。見るからにわか登山  
 者である。歩行は本能的に足  
 が出ているだけである。歩行  
 技術は全くない。このような  
 中高年登山者が目に止まる。  
 追い越しては行くが結果は私  
 達に追い越される。基本を学  
 んでのうえて、経験は力の要  
 因を秘めているが継続がなけ  
 れば力にはならない。

### 現代の若者

旭岳山頂付近になるといつの間にか若者の姿が現れ、追い越して行く。日帰り姿でパワーがみなぎっている。顔良し、スタイル良しでどこかのおじさんは話しかけたい様子である。スニーカー姿で飛ばして来る。登山靴は少ない。ザックは、お握り一個程度が

入っている状態で背中にぶら下がっている。雨具は、セーターは、電灯はとついたらぬ間いかけをしたくなる。天気が良いのに雨具を着て行動をしている者もいる。まさしく遭難予備軍である。登山は危険を伴うスポーツである事を捕らえてはいない。最も旭岳から黒岳つまりロープウェイからロープウェイのコースであるから観光の延長であろう。数回この地域を訪れているが天候は急変する。北海道周辺では殊に方向を誤ることがある。恐れを知らない。転んで



雲湧く旭岳

初めて痛さを味わう山岳観光若者である。とうとう4日間の縦走行程で若い登山者一名会っただけで、空しさだけが残った。

### 中高年登山者の食料と生活

北海岳分岐点で、健脚そうな中年男性2人ずれに行き交う。軽い装備がうらやましい。白雲岳を仰ぎながら白雲遭難小屋へ急ぐ。テントが見えようやく山岳の風情になる。小屋は1階にスペースがあり、4人パーティと単独行であった。混むことを予想して隅から詰めたが、1名増えただけでゆったり過ぎす。2階は、満員とのことであるがどのような方がおられるか知らない。6年前は若者でにぎわっていた白雲小屋周辺も、中高年から登山者が多くなり驚きぼう然とする。階下は高年に差しかかっているパーティが優先しており、迷惑を考える事なくうるさく語る。年齢は財力を示すがごとく装備を延々と語り、優越感に浸っている。食料も自慢している。何が出るかと興味があったが、インスタントラーメンである。チタンのコッヘルの自慢もよ

いが食料を考えれと言いたい。外に何かをちよつとつまんでいたが、食事は15分程度で終わった。栄養の気使がない。もつと驚くことがある。食事は各々で全員火床をもっている。5人パーティの意義は何かを問いたい。次に単独の方を観察する。男性50歳前後である。長いこと横になっていがゆっくりと起きて食事を始めた。献立はやはりインスタントラーメン1個のみで食事は終わった。いやはやどうなっているのであろうか。目的のためならな食料の1日2日の我慢はいとわず、トムラウシへと無我夢中であると、いじらしく思いたいがいしっくりしない。健康面と不慮の事故などを考えると、不安が募るばかりで言いようのない空しさである。

その5人パーティとヒサゴの先に再び会う。笛を必要以上で吹いているので事故にあつたのかと心配をする。何のことはない、本に「熊が出るので笛を吹くように」と書いてあったとの事である。人が行き交っているのに状況の変化を考えることが出来ない。言い聞かせても解らうとしない

中高年である。素直に学んでいる熱心な中高年登山者もいるのに迷惑なことである。

### 山岳ツアー

翌日晴天に恵まれ、高根が原の高山植物の群落到歓喜の声を上げ、肩で荷は帳消しになる。先回来た時は、層雲で何も見えず熊との出会いを恐れ、黒か陰を見て身構え互いに人であることを喜び、ホットした思い出が込み上げる。今日は、単独の重装備の青年と日帰り装備の中年3人連れに会うのみで忠別岳を越え、ヒサゴ沼へたどり着く。小さい小屋は既に1階は満員で2階が5、6人分の場所が空いていた。偶然先回の場所と同じである。その時は、風雨で避難をしている者同士が、時間を持って余し山岳名のしり取りをして、若者と遊んだ思いが昨日のようによみがえる。1階に居られる60歳近い夫婦が話すには「インスタラクター2名で6人のツアーが席を取って居る」とのことである。このような奥地まで進出して来たかと驚く。日暮れになると小屋は中高年で満員である。6年前には想像もしな

かった。テントは青年であるが数人である。

ツアー組は翌朝5時に出発をした。眠りを妨げられ気分が悪い。私達は日帰り装備で過去の敗退を秘めトムラウシへ7時出発。残雪の取り付きを注意深く、帰りを考慮し再確認をして進む。40分歩くとツアーらしき方がいた。歩ける状態ではない高年のようである。百名山と騒ぎ立てている昨今、観光地に赴く気分に参加をしたとしか思えない。動作が鈍く登山には不向きである。登山道をいつまでもふさいで迷惑をかけている。この地によくこのような状態の方を連れて来られたとインスタラクターを同情する。私達は14時にヒサゴ沼へ戻って来た。ツアーの方は暗くなっても帰って来ない。夕食を取りながら気が競りつい救助を考える。18時30分ようやく2名戻る。心配していたとおり雪渓を下り過ぎて、身動きが出来なくなつたとのことである。30分すると全員揃らい安どする。何を食べさせているのか分からないが、そそくさと食事は終わる。インスタラクターは30歳代と20歳代とお見受け

する。一人は荷担ぎと見る。観察力のゆとりが無かつたのであろう。



翌朝私達は1時間早く出発した。残雪が無ければ40分で行ける化雪岳分岐で追いつく。ダラダラした歩行である。若いインスタラクターであるから指示、命令が困難の上山岳は早立ちと決めつけているのであろう。いや登山者全般に言える事である。中高年の体力の計算が無い。当然栄養不足を加味した上で、山中何日目であるかこの時間なら少しも疲労が少ないだろう時間帯を割り出す。そのうえで山岳技術になる。食事のタイミング、水分の取り方、歩行技術などが加味される。肌寒いせいか参加者は雨具

を着ている。雨具を着ると動作は鈍くなる事及び疲労が増すことを知らない。どのように対処するかがリーダーの技量になる。お客であっても山岳の場合は危険が伴うスポーツであるから厳しい命令、指導があっても良いと考える。現在は中高年登山者ブームで百名山観光が盛んである。中高年登山者を批判するような話題は満載している。どのような中高年登山者かを論じるよりも、登山の基礎を細部まで楽しく語ることでできる指導者が大切である。私には楽しませる指導は難しく、誠に無念である。



### 環境月間の出来事

前事務局

杉本 敏

先般浅草岳でゴミの投棄があったと県人が指摘された。内容は、福島県高体連登山部大会時出されたゴミのようである。福島県スポーツ振興課で事実関係を把握し、主催者に注意された。指摘された方は2度もゴミの撤去確認に浅草岳に登山されたが、主催者がゴミを持ち帰ったのは一日遅れの6月13日で、擦違いになってしまった。

高体連登山部では6月29日臨時総会を開催し、反省と今後の指導について討議された。近年ゴミ投棄が少なくなり、若干マナーが向上してきていること、今後は植物の保護問題を重点にしなければ、と話題になったばかりの耳の痛い話である。

環境庁は毎年6月を環境月間として、自然保護活動と啓蒙運動を実施している。尾瀬至仏山のように一時期入山禁止の措置をとったり、メーカーがドリンク1本の売上につき、1円富士山の自然保護基金にする話も出てきた。

本当に残さなければならぬもの、残すための方法をもっと討議しないと、朱鷺のように最後の最後で慌てることに

### 行事案内

スポーツクライミングを体験してみよう!!

あんな高い所まで登れるかな? 急な所を登れるのかな? 楽しい夏休みに入って、年少者を対象とした「スポーツクライミング」の体験教室を開催しますので、登ってみたい、ボードに触れてみたい、少しでも高い所へと思っている子供達がいまさら誘ってみてください。きっと楽しいクールな体験が待っています。

対象 小学生(3年生以上)  
参加費 無料  
日時 8月22日(日) 9時30分から  
会場 糸魚川市民総合体育館クライミング会場  
申込 糸魚川市教育委員会いきいき学習課スポーツ係

TEL 0255-211511

内線342(2)

### カムチャッカの高山植物 ⑳

むささび会 加藤明文

#### エゾスカシユリ (ユリ科)

分布：北海道より北方～不明



トルバチョク山のふもとへリポートに咲いていた。高山植物ではないが、今回は①この花と②サロベツ原野のものと③佐渡のスカシユリ(イワユリ)と花がどう違うかくらべて見た。①は花の中心にある黄色が丸くきちんとしている。②③は黄色が不規則でしかもボケている。①②の花弁の先は突るが、③は丸い、そして3つとも黒点の数配列が少しちがっていた。太平洋側の海岸にはこの種のイワトユリがあるが、いずれにしても連がりがあると思うが、その母種はわからないが、他のユリと違い花弁と花弁の間が開いているのでスカシユリと言う。花の色：橙で中心は黄色

# 平成11年度中高年安全登山

## 指導者講習会開催

今年度より参加対象が拡大されましたので、再度お知らせします。

中高原登山委員長  
坂井 厚

### 〈中部地区〉

期間	平成11年10月1日(金) ～10月3日(日)
開催地	和歌山県牟婁郡すさみ町 上三山周辺
開閉式	〒649-2622 和歌山県西牟婁郡すさみ町周参見四八五七三「いこの村和歌山」
開閉式	〒073-9155 三三〇
宿泊場所	FAX 073-9155-2929
参加府県	新潟 富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

### 参加対象等

(1) 参加対象

ア おおむね60歳以下で、次の①～⑤に該当する健康な者

- ① 地域、職域等における中高年登山クラブ(グループ)のリーダー・指導者

② 都道府県山岳連盟

(2)

年度開催予定県はこの限りではない。  
参加申込

ア 上記①～⑤の該当者で参加を希望する者は、都道府県教育委員会に参加を申し込むこと。  
8月27日(金)必着。

- ③ 都道府県・市区町村教育委員会の関係者(登山担当者、体育指導委員等)
  - ④ 旅行会社等が主催する中高年を対象としたツアー登山の関係者(企画担当者、引率者等)
  - ⑤ その他、中高年登山の指導に関わる者
- イ 各都道府県2～3名。ただし開催都県及び次
- イ 都道府県教育委員会は、当該都道府県山岳連盟(協会)と協議の上、参加者を決定し、開催都県教育委員会より通知される参加申込書様式により、作成し、締切日までに開催都県教育委員会教育長に送付すること。

### 《別表》

平成11年度中高年安全登山指導者講習会日程表

時	第1日目	第2日目	第3日目
6			
7		朝 食	朝 食
8			
9		実 技	研究協議
10			
11			閉 講 式
12	受 付	昼 食	昼 食
13	開 講 式		
14			解 散
15	講 演	講 義	義 習 技
16		実 技	
17	講 義		
18			
19	夕 食	夕 食	
20			
21			

(注) 天候等により変更することがある。

平成11年度9月専門委員会行事予定

日 時	行 事 名	会 場	担 当
11. 9.	全国山岳レスキュー講習会(夏山)	宮城蔵王	遭難対策
11. 9.	競技水準向上ヒアリング	新潟県庁	国体
11. 9.	山中における救急法と搬出		遭難対策
11. 9.11～12	第10中高年登山教室	飯縄山	中高年
11. 9.11～15	指導者上級研修会	富山県黒部丸山	指導技術

日山協・文部省登山研修所等9月行事予定

日 時	行 事 名	会 場	担 当
11. 9.11～12	富山国体審判員研修会		日山協 国体
11. 9.22	熊本国体山岳競技抽選会		日山協 国体
11. 9.	夏山・山岳レスキュー講習会	宮城蔵王	日山協遭難対策
11. 9.18～19	指導者登攀技術講習会	北海道	日山協 指導
11. 9.11～15	指導者上級研修会	富山県黒部丸山	登山研修所

## 登山用品専門店

— 信頼できるパートナー —

## 大新スポーツ

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736

## 登山・アウトドアの専門店



新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025)243-6330(代)